



# 笠松の「モラルセンス」名人編 No.13



## 「話芸の名人 郷土の噺家（はなしか）林家 卯三郎 氏！」

2月28日(土)の午後2時から「第7回道徳のまち笠松のつどい」を中央公民館の大ホールで開催しました。本年度は笠松町ご出身の噺家（はなしか）林家卯三郎（はやしや うさぶろう）氏による講演を企画しました。演題は「落語国の住人たち」～寄り添って生きる～でした。噺家だけに林家卯三郎氏はこのつどいの中で、「平林」や「子はかすがい」など、全部で3つの落語を聞かせてくださいました。聴衆の方々は笑ったり、ビックリしたり、悲しんだり、すっかり落語の世界に引き込まれた2時間でした。初めて生で落語を聞いた方も多かったようです。

林家卯三郎氏は笠松小学校、笠松中、羽島北高校をご卒業になりました。同年に北海道の酪農学園獣医科にご入学。大学ご卒業後、岡山県の家畜保健衛生所に獣医師として勤務されました。しかし、落語家になる夢を捨てきれず、平成11年6月に上方落語家、林家染丸に弟子入りされました。現在は上方落語家として、各地の寄席に出演するほか、大阪、北海道、岡山などで定期的に一人会を催してみえます。平成24年には、なにわ芸術祭新人奨励賞を受賞され、これから期待される話芸の郷土の名人です。当日は同級生も20名ほど参加され応援してみえました。林家氏のさらなる精進を期待し、みんなで応援したいですね。



林家卯三郎氏（45才）



落語「平林」を熱演している様子



ホール一杯の参加者の皆さん



落語「子はかすがい」



表情がとても豊かです。



所作による感情表現が上手